

自発的な活動も、活発です。



- 1 -

■ひじり館「楽唱祭」に参加

藤川 忠博(S 40 商)

第23回目の「楽唱祭」に参加

打診がありました。

昨年の5月の頃です。毎月最終土曜日に「カラオケ会」を開催していただきましたので「ひじり館」利用団体の義務として出場することにしました。6月7日(土)午前9時半開場でひじり館地下2階のホールが会場です。

出場者は何と103名！男女比は約50対50、平均年齢は多分70代半ば(?)といったところでしょうか。

23回目というところで、出場者(殆ど常連?)は馴れたもの、自



前のステージ衣装持参者の多いこと、ステージ上でも堂々たる歌いっぷりで、物おじ一つせずに歌い上げるそのパワーに降参。

熱気むんむんの会場で、私たちはただただ大人しく出番を待つのみでありました。

高齢化社会に突入している日本ですが、この楽唱祭を見ている限り「ニッポンはしばらく大丈夫だア」と勇気づけられた一日でした。

我が地域支部の参加者は、煤田さん、伊東さん、岩永さん、安波さん、そして藤川の5名でした。

■JUKI

「縫製能率研究所」見学

伊東 勝義(S 35 商)

Iさんの提案で15名の多数参加を得、地元多摩センターで勉強会&カラオケ&懇親会を、平成26年8月12日に行いました。先ずは、鶴牧に本社のあるJUKI(株)を訪問し、男性には馴染みの薄いアパレルについて勉強しました。

同社の縫製能率研究所の佐々木所長の案内により、ソーイングセンターを見学。我々が日ごろ身に纏っている衣料品が、最新の機器で縫製されていく過程の解説を受けた後、会議室で質疑応答を



施。熱心に受け答えしている中で、

その縫製工場独特の生産工程や素材に適したアタッチメントを作ることができる職人(機械では出来ない部分がある)の養成が困難との話が出ました。これは同社だけでなく、今日の日本の殆どどの企業が悩んでいる問題ではないでしょうか。

勉強会の後は場所を多摩センター駅近くのカラオケ店に場所を移し、チョット窮屈な思いをしましたが、それぞれの持ち歌を2時間ほど熱唱。その後二次会となり居酒屋で和気あいあいの談笑後、6時間にわたる長い1日を終えました。

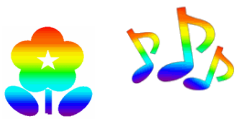
■春日野部屋見学

安波 節生(S 38 政経)

昨年9月9日の春日野部屋見学は、正に明大校友ネットワークの結果以外の何物でも有りません。

明大多摩市地域支部恒例のカラオケ会の折に、寺島忠昭氏よりNCRビジネスソリユーション代表取締役社長中川安正氏を紹介して欲しい旨依頼があり、寺島氏の上司(?)であり、明大40年卒の同窓生でもある福岡のティシューアル株式会社田川順一社長同伴で、中川社長に面談の労をとりました。

田川氏の拠点である九州地区で、NCRビジネスソリユーションの協力を得て成果を向上させる土壌づくりに協力出来たお礼に、大相撲五月場所の前から4列目の砂かぶり席(実際に砂が飛んで来ましたが)に招待を受け、9月9日には校友7人で春日野部屋の朝稽古見学の場を作ってもらう事になりました。真正面の座布団席で見たぶつかり稽古、物凄い迫力で吃驚しながら堪能しました。人気の関取遠藤も出稽古に来ていました。稽古が済んだあと、関取碧山と



自発的な活動も、活発です。



- 2 -

朝食をとり、私はビールまで飲んでしまいました。(他にも数人居たかな?) これからも楽しい企画に参加させてもらいたいものです。

余談ながら昨年末は、大分へ親戚の病氣見舞いに行った折、先輩の元首相村山さんにお会いし、写真も一緒に撮ってもらい書も戴きました。



多摩市地域「春日野部」(2014.9.9)

■江戸川

アートミュージアム見学

岩永 久佳(日18ガバナンス)
10月16日秋晴れの下、江戸川競艇場内にあるアートミュージアムの見学とボートレース観戦を行いました。

いました。

全国で唯一河川の水面(江戸川の支流の中川)を利用した本競技場で実施するボートレースの主催者として、多摩市が名前を連ねていることから実現した企画でした。

アートミュージアムは本競技場を所有する企業のオーナーのコレクションであり、世界に3体しかないうちの1体「ASTRO BOY」(荒木博志作)をはじめとする、有名無名を問わず、非常に珍しい作品群が収納されています。競艇ファンを増やす一助として、アートツアーを実施していますが、とても好評です。 私たちも、貴重で珍しい作品に魅了されました。

さて、レースの方は・・・初観戦の方が多く、舟券の購入の仕方、レースの楽しみ方なども解説をいただき、特製のランチ弁当をいただきながら、3時間ほど懇親も深めつつ楽しんできました。

結果はいかに・・・それは心中それぞれの秘密です。大当たりしたという笑顔がなかったことだけ付け加えておきます。

参加者は多くありませんでしたが、とても和やかなうちに終了し、江戸川競艇場から永山に帰りついた後、2次会で盛り上がり解散と



になりました。企画担当者としては、ボートレース場のある船堀まで東京の西から東までと遠路はるばるの行程でしたが、無事に終わって一安心でした。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

■東京競馬場見学会

榎田 成美(S41法)

11月23日は快晴でした。真青な空のもと、広い競馬場はグリーン芝生も美しく、遠く富士も見え、素晴らしいところでした。

なにしろVIPルームでの見学ですから、競馬は下の方でやっています。これが本当の高みの見物というのだろうと思えました。

まず、馬券の買い方の説明を聞き、2レースから買いはじめ11レースまで買い、そのうち7レースは当たったのですから自分でもたいたものだと思います。なぜ当たったのか、それは「ケイユウ」

という新聞なのです。新聞の二重丸のついている馬を中心に、馬連と、枠連をうまく買ったところとてもよく当たったわけです。でもいつも買うのは100円です。でもいっつも買うのは100円です。2・3倍にしかありませんでした。一つだけ100円が千4百円になりました。この時だけ100円でなく、千円買ってあげばよかったのにと思いましたが・・・。そんなわけで、競馬にのめり込む人の気持ちがよくわかりました。

馬の走る姿は皆素晴らしい、思わずどの馬でも応援してしまいました。後から自分ほどの馬を買っていたのかしらという状態でした。

今回、競馬場見学会を企画してくださった方本当にありがとうございました。楽しかったです。

